



おかやま環境ネットワーク

NO.57
2010.7

NEWS

発行:(財)おかやま環境ネットワーク
〒700-0026 岡山市北区奉還町1-7-7
TEL/FAX 086-256-2565
E-mail:kankyounet@okayama.coop
HP:http://www.okayama.coop/kankyounet/

ネットワークのつどい・報告会開催報告

6月5日、オルガホールにて『ネットワークのつどい・報告会』を開催し、66名が参加されました。

今年は、交流の強化を目的に、助成活動報告会、維持会員総会、交流会の3点を併せ持つ交流事業として開催しました。

1. 助成活動報告会

青山勲理事長の挨拶の後、助成団体報告として、1) 環境ミュージカル上演(みゅーじかる劇団きんちゃい座)、2) 中学高校環境研究会報告(吉鷹一郎氏)、3) 児島湾水圏研究会報告(奥田節夫氏)がありました。報告以外の助成団体は、報告書の配布と会場内での展示報告としました。



2. 維持会員総会

理事会報告(09年度事業・決算、10年度計画・予算)並びに監査報告を事務局より行いました。

3. 会場内展示閲覧

展示団体への質疑応答等の交流をしました。

4. 交流会



会員間の交流、特に問題の共有化を目的に、「自然保護」「エネルギー・廃棄物」「調査活動」の3テーマに別れグループ討議を行ない、お互いにつながることのきっかけになりました。

その後、各グループ討議内容を発表し、共通した問題点を整理し閉会しました。

アースデイファミリープログラム開催報告

5月15日、兵庫県立『人と自然の博物館』へ行き、「人と自然とのかかわり、変動する地球の姿」について楽しく学びました(35名参加)。



高橋晃・兵庫県立大学教授から、セミナー『生物多様性と私たちの暮らし』と題し、生物多様性とは何だろうか? 私たちの暮らしとどのように関係しているのだろうか? というお話を聞きました。『今、地球では何が起きているのか?』『なぜ、生物多様性を保全するのか? 生物多様性が危うくなると…』ということを知りやすくお話していただきました。

また、博物館で展示されている資料など、大人も子どもも一緒に見て触れて学びました。



No.57の内容

- I. ネットワークのつどい、アースデイファミリープログラム開催報告……P.1
- II. 寄稿『生物多様性の意義の再考を』伊藤 國彦……P.2
- III. 寄稿『高島・旭竜エコミュージアムを語る会』北川 文夫……P.3
- IV. 団体会員紹介『千年の森づくりグループ』浦島 文男……P.4
- V. 法人会員紹介『岡山医療生協』山崎 晶弘……P.5
- VI. 『エコファミリー講座』『テーマ別講座②』ご案内……P.6
- VII. 『環境講座』ご案内……P.7
- VIII. 理事会報告、ご案内等 ……P.8

伊藤 國彦

「生物多様性の意義の再考を」



今年（2010年）は、生物多様性の意義を再考する絶好の年だと思います。

10月には第10回生物多様性条約締結国会議（CBD-COP10）が名古屋で開催され、それに連動して地方自治体などでも様々な関連事業が準備されています。岡山市では今年を生物多様性元年と位置付け「岡山の人と自然展」（7月10日～8月18日：デジタルミュージアム）など多様な取り組みが行われます。

岡山県では、先般「岡山県版レッドデータブック（2009）」を公表し（県のHPで閲覧可能）、ダイジェスト版も準備中です。

IPCC予測やゴアレポートに触発され、最近「環境」「エコ」「温暖化」などの言葉が今までになく

多用されていると思います。

それだけ、環境問題への関心が高まっているのだと思えば良いのですが、私には若干気になる事があります。

ブーム的でイベント的でファッション的な取り組みやキャッチフレーズが多すぎると思います。

環境問題の優先順位が「温暖化対策（CO₂やエネルギー問題）」と「個人の生活スタイル」の見直しなどに集中しすぎだとも思いません。

個人的には、最重要課題は生物多様性の保全だと思います。前述のように「生物多様性」という言葉も今年は特に多用されていますが何故多様性が大切かについては私にも良く理解できていませんが、それでもそう感じます。他の問題と異なり、生物多様性の崩壊は私たちの生活や命や健康に直接的には影響があるように思えますし、すぐに見えません。また、これほどの規模と急激な変化は多分今までに人類が経験したことだと思います。

多様性の崩壊は何をもたらすの

か、ほとんど予想できない所に本当の怖さを感じてしまうのは、私だけでしょか。

昨年、日本鱗翅学会主催で「日本産チョウ類の衰亡と保護」に関するシンポジウムが開催され、「中国地方のチョウ類の現状」について報告しました。その準備の過程で、中国5県の状況を調査しましたが、中国地方に生息しているチョウ類の約40%が県別RDBに記載されている事がわかりました。岡山県でも数種は、近々絶滅と認定せざるを得ないと思います。

そのことが、私たちの生活にどう関わるのか、良く分かりませんが自然界からの重要な警鐘である事は確かだと思います。

飛んでいるジェット機から小さなビスが少し抜け落ちて、とりあえず問題ないのかもしれませんが、気づかず、あるいは無視するとどうなるのかは予測できると思います。今年もチョウの保全と調査に関与しながら、生物多様性の意義について再考したいと思います。

伊藤 國彦 氏

1945年生まれ。岡山県立大学名誉教授。絶滅危惧種ウスイロヒョウモンモドキを中心に県内昆虫相を調査している。日本鱗翅学会自然保護委員会中国地区委員長。(財)おかやま環境ネットワーク評議員。

北川 文夫 高島・旭竜

エコミュージアムを語る会



1. 設立とその背景

岡山市旧市街の北東の旭川、龍ノ口山、百間川に囲まれた高島と旭竜の小学校区は、江戸時代から祇園用水などの用水が整備され、淡水魚の生育環境が意図せずに守られてきました。中でも国の天然記念物のアユモドキが生息する数少ない地域であり、地域として淡水魚保護に関心をもっています。

また、後楽園用水や百間川の開始地点では、ホタルの保護活動も行っており、毎年ホタルが飛び交う姿を観察することができます。

また、龍ノ口山は国有林を県が借りて県営のグリーンシャワー公園として整備され、ハイキングや動植物の自然観察の場などとして、多くの人たちに親しまれてきました。

これら地域の豊かな自然を地域の子供たちに体験してもらおうということがきっかけで、子供も大人も参加できる組織を高島公民館を中心に結成したのが、高島・旭竜エコミュージアムを語る会です。(詳しくは<http://kouminkan.city.okayama.jp/takashima/tkecm/index.html>)

北川 文夫 氏

1957年生まれ。群馬県出身。岡山理科大学教授。高島・旭竜エコミュージアムを語る会会員。おかやま投稿型古写真データベース作成委員会委員長。(財)おかやま環境ネットワーク評議員。

2. 主な活動

活動の拠点は高島公民館で行っており、公民館の職員にも協力していただいています。主な活動は、次のようなものです。

- ・アユモドキの稚魚の個体数調査(岡山淡水魚研究会の保護田で、同会との共催)
- ・ホタル観察会を開催(身近な生きものの里高島・旭竜との共催)
- ・高島公民館の川ガキ講座に協力
- ・地域の農家の人から藁ぞうり作りの伝授
- ・グリーンシャワー公園でのクリスマスリース作り
- ・グリーンシャワー公園を自主管理するグリーンシャワーの森を守る会の発足と運営
- ・百間川の野草を食べる会開催

3. 活動紹介

3.1 アユモドキの稚魚調査



岡山淡水魚研究会が賞田地区の休耕田を借りてアユモドキが産卵できる場所を確保しているため、毎年産卵後の稚魚の個体数調査を共同で行っています。

毎年、地元の小学生から参加者を募り、自分が住んでいる地域の自然が貴重なことであることを体験を持って知ってもらう機会になっています。

3.2 ホタル観察会



高島地区では祇園用水をはじめとする水路が沢山あり、それぞれの水路でホタルが毎年見られます。中でも後楽園用水では、身近な生きものの里高島・旭竜の会の方々が中心になってホタルの幼虫の保護などを行ってきたので、毎年沢山のホタルが飛び交う姿が見られます。この様子を地元の子供たちに知ってもらおうとホタル観察会を毎年開催しています。

3.3 グリーンシャワーの森



岡山県の財政難のため龍ノ口グリーンシャワー公園は2010年3月末で閉園になりました。しかし、地元の人たちが定常的なパトロールやトイレ清掃、草刈などを行う条件で存続が認められました。「龍ノ口グリーンシャワーの森」という名称になり、守る会が受け皿になっています。

写真はリース作りのものです。

(連絡先)

高島公民館 (086-275-1341)

浦島 文男〔代表〕 『千年の森づくりグループ』



わたくしは、2001年頃から豊島、小豆島の皆様に学び、学習し、島での広葉樹の苗木育成を島の皆様としてきました。

その後、2003年、直島町への旅行で、民宿おかださんに泊まり、主人の苗木育成に感銘し、広葉樹の苗木を育成し、荒廃した山野のみどり再生で共感し、広葉樹のタネの採取、苗木の育成を取り組みました。



2004年1月、直島町の山林火災がおき、島の北半分が消失しました。その年、台風が中国・四国に上陸。海面の上昇で、発芽した苗木は海水をかぶり全滅しました。10月から12月にタネの採取を緊急に行い、育成に入りました。その

後、毎年20,000粒以上育成しました。

『台風23号（2004年10月） 岡山県急襲、県森林被害65億円』

県北の森林は5,400ヘクタールが倒木被害にあいました。岡山県美咲町で育成してきた広葉樹の苗木は、大きな役割をはたす時がきました。岡山県地球温暖化防止活動推進員の北の仲間が『美作地区協議会』を立ち上げました。この年、県民局が誕生しました。美作県民局が募集した『協働事業の提案』に、千年の森づくりグループが応募。最優秀で合格しましたが、実現までは2年もの真剣な議論を協働推進室・森林課と行ないました。



この間、美咲町美咲中央小学校の『総合学習』を、エコネット美咲の玉木正夫・浦島文男が行いました。地球温暖化、千年の森づくりで、4・5・6年生に行いました。2007年11月25日、2008年11

月25日の2年間「総合学習」で植樹を開催しました。



2009年11月22日美咲町境地区の耕作放棄地区の棚田の再生をめざして、植樹の行事を開催しました。岡山環境カウンセラー協会の主催、苗木は、千年の森づくりグループの直島・美咲町の広葉樹の苗木を5,000ポット運搬し、無事に植樹ができました。

現在は、植樹（やすらぎの森、境の棚田）、植樹地の保育、下草刈りを継続しています。暴走竹数万の刈りきりもしています。CO₂吸収の千年の森は、将来は『黄金の森の誕生』を迎えます。食料、木材、エネルギーになるようにまだまだがんばります。

2010年6月26日には美咲町境地区の棚田において、『保育のつどい（下刈り・間伐・枝打ち）』を開催し、竹の粉碎机も登場しました。

皆様、これらの取り組みに是非ご参加ください。

浦島 文男 氏

『千年の森づくりグループ』代表。岡山県地球温暖化防止活動推進員・美作地区協議会会長。(財)おかやま環境ネットワーク自然環境部会メンバー。

山崎 晶弘 (常任理事・組織部長)
岡山医療生協



岡山市医療生協（現岡山医療生協）の設立総会は、1952年(昭和27年) 8月に行われました。その時の組合員は306人、出資金10万円（1口300円）でした。ただし出資金は、分割払い込みの関係で、この時までには払い込まれたのは18,000円余りにすぎませんでした。

1957年までに4診療所〈岡山大衆診療所、花畑診療所（新京橋）、北診療所（宿）、南診療所（平井）〉を展開し、医療活動は地域の労働者、とくに全日自労の労働者を中心に広がりました。労働者の働いている作業現場への出張診療、青空診療なども行いました。岡山駅西地域を中心に中小企業の鉄工所、マッチ工場、ゴム工場などにも出張診療したり集団検診にあたりました。

診療所は夜間・日祭日の診療など、働くひとびとには大変喜ばれ

ました。こうして、次第に働く人や貧しい人たちの医療センターとしての基礎がつくられていきました。

1954年（昭和29年）の第3回総会では、日本生活協同組合連合会、岡山県消費生活協同組合(現県生協連)に加盟することを決定しました。この当時、社会保障闘争の中で歴史に残る「朝日訴訟」やポリオ生ワクチン輸入運動、健保改悪反対運動が大きく盛り上がり、岡山医療生協の職員・組合員は大きな力を発揮しました。

1980年代には、センター病院である岡山協立病院が市内8番目の総合病院となり、旭川以東の医療機関として地域医療を担う役割を果たしてきました。また、組合員活動では、地域に支部づくりが始まり、保健活動・健康づくりを進める運動が大きく進み始めました。

現在、岡山医療生協は、2病院、4診療所（設立当時とは別の配置）、8介護事業所、1保育園を運営しています。また地域では、8ブロック42支部が健康づくり・まちづくりの活動を進め、医療生協の健康習慣の定着をすすめてい

ます。さらに、平和環境を守るとりくみを位置づけ、戦争に反対し核兵器を世界からなくす運動、エコリーダー養成講座やエコ月間などにも力を注いでいます。平和で安心してらせる環境でなければ健康は守れません。元気で安心して暮らせるまちづくりを進める方々と力を合わせていきたいと思っています。

医療生協の健康習慣

8つの生活習慣

- (1)生活リズムを整え快適な睡眠をとる
- (2)心身の疲労を避け、十分な休養をとる
- (3)禁煙にとりくむ
- (4)過度の飲酒をしない
- (5)適度な運動を定期的につづける
- (6)低塩分、低脂肪のバランスのよい食事をとる
- (7)間食せず、朝食をとる規則正しい食生活
- (8)1日1回以上よごれを落としきる歯みがきをする

2つの健康指標

- (1)適正体重、適正体脂肪、適正腹囲を維持する
- (2)適正な血圧をめざす

山崎 晶弘 氏

1954年10月生まれ。岡山医療生協常任理事・組織部長。1977年医療生協入職。2009年岡山医療生協常任理事。(財)おかやま環境ネットワーク理事。

エコファミリー講座のご案内

『のとり原まるごと探検』

さあ夏休み！ のとり原の生きもの探検に出発！
虫も魚も草も木も花もみんなを待っているよ！

- ①. 日程：7月24日（土）8：15オルガ前集合
～25日（日）16：30分オルガ前解散予定
- ②. 行先：のとり原キャンプ場（鏡野町富西谷）
- ③. スケジュール（予定）：
 - ・ 1日目：源流に住む水の中のいきもの観察、アマゴつかみ取り、バーベキュー、アマゴ焼き、光に集まる虫の観察、星空ウオッチング、温泉入浴（入浴代必要）。※テントに泊まります。
 - ・ 2日目：家族で虫を探す、伐採見学、いきもの探検と植物観察、山の学校、マイ箸づくり、そうめん流し
- ④. 参加費：一人10,000円（4才以上の未就学児8,000円）※おかやま環境ネットワークの個人会員（年会費2,000円）とその家族は一人8,000円、4才以上の未就学児6,000円。お申込み時、加入申込（任意）をお尋ねします。
※1日目昼食用弁当は各自持参、1人米一合持参
1家族野菜一種類持参（種類は別途ご案内）
- ⑤. 参加要件：小学生を含む家族（小学生の参加が前提、4才以上の弟妹の参加は可、その場合は大人2人の参加が必要。4才未満は参加できません）
- ⑥. 募集人数：40名
※定数を超えた場合は抽選。お申込みいただきました方へは、抽選結果、詳しいご案内を郵送。
- ⑦. 申込：7月15日（木）までに、住所・電話・FAX・参加者名・性別・こどもの学年（年齢）・集合場所と交通手段（①. オルガ集合バス乗車・②. オルガ集合自家用車・③. 現地集合自家用車）・おかやま環境ネットワークの会員か非会員・会員の場合は会員名をご連絡ください。



※お寄せいただく個人情報は、利用目的以外の使用や第三者への開示などは一切行いません。

テーマ別講座②のご案内

『みんなの自然観察会』

～親子で実感！生物多様性
これで夏休みの自由研究はバッチリ！～

夏の岡山県自然保護センターにすむ生きものを観察し、生きものについて学びます。

豊かな自然の中で生物多様性を守っていくため、人と自然のかかわり方について学びましょう！



- ①. 日程：8月20日（金）
- ②. 行先：岡山県自然保護センター（和気町田賀730）
- ③. スケジュール（予定）：
 - ・ 9：00 オルガ出発（8：45～受付）
 - ・ 9：40 コープ西大寺
 - ・ 10：00 コープ山陽
 - ・ 10：30 岡山県自然保護センター
湿原生きもの観察、タンチョウの生態、竹細工…、昼食（各自持参）
 - ・ 15：00 岡山県自然保護センター出発
 - ・ 15：30 コープ山陽
 - ・ 15：50 コープ西大寺着
 - ・ 16：30 オルガ着※雨天決行、警報発令時のみ中止します。
※運動靴等でご参加ください。
- ④. 参加費：バス乗車ー1人500円（年齢関係無、バス代として）、現地集合の方は無料
※昼食は各自持参してください。
- ⑤. 参加要件：小学生以上、こどものみの参加は不可、大人のみは可。
- ⑥. 募集人数：バス乗車ー40名、現地集合ー10名
※定数を超えた場合は抽選。お申込みいただきました方へは、抽選結果、詳しいご案内を郵送。
- ⑦. 申込：7月30日（金）までに、住所・電話・FAX・参加者名・性別・こどもの学年（年齢）・集合場所（①. オルガ・②. コープ西大寺・③. コープ山陽・④. 現地）をご連絡ください。

『人間社会の維持のために、環境問題が起こる仕組みをカガク(科学)する』

回	日程・テーマ	内容紹介	講師
I	9/25(土) 環境とは何か	近年、人間社会と人間生活は環境と不可分に結びついているのが広く理解されてきた。しかし、「環境」の本質については未だに正しく理解されているとは言い難い。環境問題を正確に理解し、的確な対策を考えるために環境の本質について解説する。	岡山大学学長 千葉 喬三氏
II	10/16(土) 人間にとって 大気とは何か? 大気環境の変化	大気の問題は、性格の異なる二つの問題からなる。一つは大気汚染で、もう一つは大気の状態変化である。前者は人間の健康と直接関係する。後者は気温上昇などによって生活環境破綻が生ずる問題である。これらを具体的に解説する。	岡山理科大学 理学部教授 野上 祐作氏
III	11/20(土) 水の流動、循環の実体を 理解した水資源の利用	宇宙のなかでの「水の惑星」の特異な存在を示し、水の特殊な物性が人類をふくめた地球上の生態系の発達、維持をもたらした理由を示し、さらに河川、湖沼、海洋、地下での水の流動、循環の動態を解説したうえで、「治水(水災害の防止)、利水(水資源の活用)」および「水圏生態系の保存」の同時達成の方策を考える。	京都大学 名誉教授 奥田 節夫氏
IV	12/18(土) 土壌とは 人間活動と土壌劣化	地球は、太陽系の中で唯一、潤いのある土壌が存在する惑星(土壌の惑星)です。あらゆる生物の生活の場として重要な役割を果たす土壌の構成要素、そのはたらきなどについてお話をします。また、人間活動に伴う地球規模での土壌劣化の紹介をします。	岡山大学 名誉教授 足立 忠司氏
V	1/15(土) 生態系と人間活動 ～地球一個分の くらして?～	人間活動の総ては生態系に依存します(人間が生態系の一部、ということ。)人類が持続するためには、[人間活動総量] < [生態系の能力] が根本条件です。この二つの量の測定方法が確立されました。生態学と経済学の協働です。さて、両者の量はどのようにでしょうか?	元岡山大学 准教授 白井 浩子氏
VI	2/19(土) 人類発展の 仕組みの反省 新しい仕組の構築	地球誕生から46億年。私たち産業革命以後の人間は、地下資源を使うことによりたった200年で発展し、すぐに人類存亡の淵に立つという人類史でも稀な世代を生きています。本講はこれまでの環境問題の制度制定経緯や地元岡山の自然環境行政について、考察を加えていきます。	中国四国地方 環境事務所 水信 崇氏 阿蘇品 勉氏 ※予定
VII	3/19(土) 自然と人間の 共生を図ること、 持続可能な 社会構築のために	6回の講義内容を踏まえて、持続可能な社会づくりのため、「環境・人間・文化」の問題を考えます。後の1時間を「自然と人間の共存のための環境倫理」についてみんなで議論し、ディベートを行い、自分の考え方を身につけましょう。	岡山大学 研究推進本部 副本部長 青山 勲氏

- ①. 会場：オルガ(会場名は当日にオルガ内掲示板でご確認ください)
- ②. 時間：10～12時講義・質疑応答
一旦終了後、自由参加で30分間講師を囲んで懇談
- ③. 定数：35名(先着順)
- ④. 受講料：無料
- ⑤. その他：各回レポートの質問には講師が回答し、全員に返却
- ⑥. 申込：必ず事前にお申込みください(先着順で受付)
住所・電話・FAX・参加者名・参加講座番号(I～VII)をご連絡ください。
定数を超過し参加いただけない場合のみ連絡します。



※お寄せいただく個人情報は、利用目的以外の使用や第三者への開示などは一切行いません。

水島環境フォーラム in岡山のご案内

テーマ：「児島湾における水圏環境の変遷過程」

- ①. 日時：7月10日（土）
13:00～17:30
- ②. 場所：オルガ5階スカーレット
- ③. 主催：（社）日本水環境学会
中国・四国支部岡山地域分科会
○共催：岡山理科大学環境教育地域支援研究会、（財）おかやま環境ネットワーク
- ④. 内容：
 - 特別講演 13：15～13：55
 - ・児島湾の漁業環境の変遷（尾田 正）
 - 一般講演 各15分
 - ・児島湾及びその隣接海域における潮位と水温の変動（奥田 節夫）
 - ・児島湾に注ぐ旭川の水温の経年変化（北岡 豪一）
 - ・児島湾内の水質の分布とその変動（野上 祐作）
 - ・児島湾における貧酸素の現況と変化（高木 秀蔵）
 - ・15：00～15：15休憩
 - ・吉井川河口干潟におけるハマグリ養殖計画（鳥井 正也）
 - ・乙子干潟の生物（森 千恵）
 - ・高島干潟の生物（齋藤 達昭）
 - ・高島干潟の底質環境（山口 一裕）
- 総合討論会（河原 長美）
16：15～17：00
- ⑤. 交流会 17：30～19：30
 - ・会場：居酒屋「未完成」岡山駅西口（徒歩3分）
 - ・会費：3,000円
- ⑥. 募集定員：20名
※先着順で受け付けます。
※フォーラムのみの参加は無料です。
- ⑦. 申込：お名前・住所・電話・メールアドレス・交流会参加の有無をご連絡ください。

ホテル団体交流会のご案内

おかやま環境ネットワークでは、県内各地の団体あるいは個人でホテルの保護、復活、再生をめざす人々にお集まりいただき、年3回ホテル団体交流会（5・7・9月頃）を、また年1回ホテルフォーラム（今年は11月27日を予定）を開催し、取り組みの交流をすすめています。

どなたでも参加できます（無料）。ホテルに関する交流をすすめ、ネットワークをひろげましょう。

- ①. 日時：5月8日（土）
10：00～12：00
- ②. 場所：オルガ5階会議室
- ③. 内容：飛翔状況・取り組みの交流、ホテルフォーラムについて
- ④. 申込：資料・会場の準備のため必ず事前にお申込ください。お名前・住所・電話をご連絡ください。

環境家計簿レポート

おかやま環境ネットワーク環境家計簿委員会と岡山市とで共同ですすめています「環境家計簿」の2009年実績をまとめた『環境家計簿レポート』ができあがりました。会員の皆様、環境家計簿モニターの皆様に1部同封していますので、ご覧ください。

※「環境家計簿モニター」の皆様へお願い

2010年より実績報告を、7月（1～6月分）と1月（7～12月分）の年2回としていますので、忘れないよう、7月中に1～6月分の報告をお願いします。

自然環境 おかやま

この度、No.8より誌面を刷新しました！会員の皆様に1部同封していますので、ご覧ください。

ただ今自然環境部会では、「第2回おかやま環境シンポジウム」（2011年2月26日予定）開催に向けた準備をすすめています。

6月度理事会報告

6月理事会にて、以下の事項が承認されました。

- 1. 「自然環境おかやま」リニューアル
- 2. 第2回テーマ別講座
- 3. 第3回テーマ別講座の具体化
- 4. 「水環境フォーラムin岡山」、「美咲町棚田保育のつどい」共催など

ネットワークニュースへ 寄稿を！

おかやま環境ネットワークニュースでは、団体会員、法人会員の皆様の紹介をしています。原稿をお寄せください。お待ちしております！

詳しくは事務局へお問合せください。

2010年度会費をまだ納付いただいていない方に振込用紙を同封しておりますので、お振り込みくださいますようお願いいたします。

■お問い合わせは
 (財)おかやま環境ネットワーク
 〒700-0026
 岡山市北区奉還町1-7-7
 TEL/FAX 086-256-2565
 E-mail:kankyounet@okayama.coop
 HP:http://www.okayama.coop/kankyounet/

かけがえのない地球、未来のこどもたちへ！